

岡山県総合文化センターニュース

県内図書館めぐり Part 久米町立図書館



久米町は岡山県のほぼ中央、津山盆地の西部に位置する豊かな自然に恵まれた美しい町です。

二十一世紀を展望した調和のとれた潤いと活力のある町づくりを目指して造られた総合文化運動公園内に、レンガ造りの塔の形をした図書館があります。

平成五年四月にオープンしましたが、当時は県北の町村では初めての本格的図書館として、地域の人々だけでなく、大勢の人たちの期待と熱いまなざしを受けました。

「暮らしの中へ図書館を」と呼び掛けながら、生涯学習、地域づくりの拠点として町民の一人ひとりに図書館と本のすばらしさを広めています。

また、親子のふれあいの場として、ボランティアの方を中心に絵本の読み聞かせや紙芝居、人形劇、エプロンシアター等の会を定期的に行っています。この他には、二階のギャラリーを使って展示会等を数多く催しています。が、こちらは町民の発表の場として、利用されています。

所在地 〒七〇九 四六〇三三
久米郡久米町中北下二七二

電話 (〇八六八)五七 三四四四

蔵書冊数 約二万七千冊
貸出冊数 約二万八千冊

(町民一人当たり約三、五冊)



感動 未来へ おかやま

平成10年度 おかやま長寿学園

「書物でたどる岡山」講座

のご案内

期間：平成10年10月6日(火)～11月4日(水)

会場：岡山県総合文化センター第一会議室

当文化センターでは、昨年度に引き続き、おかやま長寿学園「書物でたどる岡山」講座を開講します。講座の概要・募集要項については、次のとおりです。

講座の概要

講座の内容は、昨年度と同様、郷土岡山について執筆された方々を講師としてお招きし、一冊の著作物から、その本にまつわるエピソードを披露していただきます。

今年度は昨年度よりも更に各講座の内容の充実を図っていく予定です。一講座時間をゆとりのある三時間とし、先生方との交流も深めていただきたいと思います。

講師の先生方は、古代から近代



講座の様子(平成9年度)

講座日程

日時 各13:30 ～16:30	講義名(仮題)	講師
10/6(火)	近代の戦争と岡山 ～『ラッパ手の最後』より	西川 宏氏
10/14(水)	未完の政治改革者としての犬養毅 ～『犬養毅 リベラリズムと ナショナリズムの相剋』より	時任英人氏
10/21(水)	私が書いてきた歴史上の人物たち ～『女たちの備前岡山城』より	松本幸子氏
10/28(水)	『美作太平記』を読む	三好基之氏
11/4(水)	吉備真備とその時代 ～『吉備真備』より	高見 茂氏

までの、五人の方にお願ひしました。いずれの著作も当文化センター郷土資料室にございますので、講座への参加と共に、これらの著作にも目を通していただければ幸いです。

募集要項

一、講座日程

左記日程のとおり。

二、受講資格

原則として六十歳以上で通学

可能であること。

三、受講受付

五月中旬から六月五日(金)まで。

四、受講者定員

六十名

*応募者多数の場合は、当館で抽選の上、決定させていただきます。

五、連絡先

岡山市天神町八 五四

(〇八六)二四 一二八八

内線二三三八

岡山県総合文化センター

奉仕課郷土資料室

文化センター合唱団 定期演奏会

文化センター合唱団(团长長井上真澄)の定期演奏会を、来る五月二十三日(土)午後六時三十分から岡山県総合文化センターホールで開催します。

この演奏会は、歌うことを通して生活に潤いを持たせることを主な目的に昭和四十年に結成され、活動を続けてきた合唱団の練習成果を発表するもので、昭和四十一年の第一回から数えて、今回で第三十三回になります。

第一ステージでは、地元作曲家「田原 碩」作品集から「まつりずしの歌」他六曲を、指揮・柿本幸徳、ピアノ・三吉史真により、御披露いたします。

続く第二ステージは、長淵剛・井上陽水他による六曲を、「乾杯」青春の「ページ」と題し、指揮・中山斉・ピアノ・大塚静江で、お聞かせします。

最後の第三ステージは、再び、指揮・柿本幸徳、ピアノ・三吉史真に戻り、混成合唱組曲「水のいのち」全五曲です。約二時間のさわやかな歌声をお楽しみください。

多数の方の御来場をお待ちしています。入場料は無料です。

おかやま人物往来 38

古川古松軒



「百聞は一見に及ばず」。古松軒の著作にしばしば見える言葉である。古川古松軒は何よりも自らの目で見ることを重んじた実証の人であった。

古川古松軒は享保十一年(一七二六)今の総社市新本に生まれた。八歳の時母勝を失ったこと、二十歳のころ京都に住んだこと以外、若いころの古松軒についてはほとんど明らかでない。いつのころからか、現在の真備町岡田に移り、「仲屋」という薬屋を営んだが、四十歳半ばのころには、博奕にふけつたり、代金不払いで大坂の薬問屋から訴えられるなど、その生活は決して安定したものではなかったと思われる。

自ら「遅まきの人」というように、「西遊雑記」・「東遊雑記」な

ど、古松軒の名を有名にした著作はすべて五十歳を過ぎてからのものである。「西遊雑記」は五十八歳の時、一人で九州

古川古松軒画像(部分) 市立函館図書館蔵

を巡った旅の紀行。幕府巡見使に随行して江戸から蝦夷地に至り、紀行「東遊雑記」を著したは六十三歳の天明八年(一七八八)であった。幕府巡見使に随行して蝦夷地へ行くことができたのは、松平定信の家臣小笠原若狭守の侍医松田魏楽

の養子になっていた長男護孝(魏丹)のつてによると考えられる。寛政六年(一七九四)、古松軒

は幕府勅定奉行から武蔵国の地理調査を命じられた。六十九歳であった。翌年地図と報告書を提出し、首尾よく任務を果たして帰郷した古松軒に郷里の岡田藩主は苗字帯刀を許可している。古稀にあたるこの年の秋、古松軒は有井(現真備町)に草庵をむすび、「竹亭」と号してここに隠棲、文化四年(一八〇七)八十二歳で没した。

古川古松軒の著作には、「西遊雑記」・「東遊雑記」をはじめ、「東行雑記」・「帰郷しな嘸」など紀行のほか、著名な合戦の場を訪れて武将の戦略を分析した「御六戦志」など合戦の分析書、地図も多い。これら古松軒の著作に共通する

のは、実地を重んじる実証的な観察態度であるが、今一つ古松軒の著作を特色づけるのは各種のスケッチ類で、それは真を写して妙である。これが著作の資料としての価値を高めていると考えられる。

古川古松軒が意外に知られないのは江戸時代に著作が出版されなかったこと、また地元岡山で必ずしも知名度が高いといえないのは県内に関係する著作が少ないためである。

本館で閲覧できる古松軒の著作は、「西遊雑記」・「東遊雑記」・「四神地名録」・「古川反古」・「吉備之志多道」・「八丈島筆記」など近代以降に刊行された著作であるが、「日記」・「雑記」・「紀行都の塵」・「東行雑記」・「帰郷しな嘸」・「四国道之記」など未刊の著作を紹介した岡山県立博物館の『研究報告』や古松軒の和歌を集めた渡辺知水の『古松軒歌集』もある。

また、古松軒を紹介した文献には、「古川古松軒」・「わたしたちのふるさと」・「総社」・「誇りに思う人々」・「総社市人物風土記」・「郷土にかがやく人々」・「思想の流れ」・「ゆかりの地を訪ねて」下巻・「岡山県史」近世などのほか、雑誌「倉敷春秋」・「高梁川」・「吉備郡史」下巻は、多くの関係資料を収録して、古松軒研究の基本図書として貴重である。

外国語資料紹介

Celebration! Children just Like Me (Written by Anabel Kindersley, Photo by Barnabas Kindersley / DK Publishing / 1997)



インドのホーリー祭、スウエーデンのルシア祭り、日本の雛祭りなど、世界中の子供たちが自分の国のお祭りや祝日を紹介している。豊富な写真とともに、詳しい説明がなされており、参考図書としても役立つであろう。

Picture of the Heart:

The Hyakunin Isshu in Word and Image (Joshua S. Mostow / University of Hawaii Press / 1996)

歌がるたとして庶民のあいだで受けつがれ、現代もなお広く親しまれている百人一首。この書は、かるた絵とともに歌の訳と鑑賞がなされている。歌人の心に深く入りこんだ鑑賞は、いにしえの人々の風雅やみやびやかさを読者に味あわせてくれるだろう。

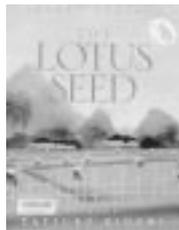
Polar Dance: Born of the North Wind (Photo by Thomas D. Mangelsen. Story by Fred Brunner / Image of Nature /

1997)



果てしない氷の中を勇敢に生きる北極グマたち……。この書は、その親子の生活を追った写真集である。北極の四季の美しさとともに、彼らの愛らしさに読者は魅せられるだろう。

The Lotus Seed (Sherry Garland. Illust by Taturu Kiuchi / Hercourt Brace & Company / 1993)



これは、ボート・ピープル(難民)として異国アメリカに渡ったある家族の物語である。祖国ベトナムの沼地に咲く華麗なハスの花。その花の種を「おばあちゃん」はつらい時やさみしい時、そと取りだしては握りしめ、また勇気をふるって家族のために働いた。やがてその種から花が咲き、新しい種は孫たちに手渡されていく。平易な言葉で淡々と語られているが、人にとって祖国とは、そして家族とは何なのかを問いかけてくる作品である。

当館の参考図書 92

地域研究・郷土資料図書目録全三巻(図書館流通センター 一九九七)

本書は、明治期から現在までに刊行された日本全国の地方史・自然史など、地域研究に役立つ図書約五万点を収録した図書目録である。上巻(北海道・東北・関東篇)・中巻(中部・近畿篇)・下巻(中国・四国・九州篇/索引篇)の三巻から成る。

見出しには、地方自治体の名称を用い、配列は全国地方公共団体コードの順。収録した図書については、それぞれ書誌情報が記されている。

索引は、自治体・書名・著者別と三種あり、検索の便が図られている。

対訳日本事典(講談社インターナショナル 一九九八)

日本を海外に紹介するには、まず日本そのものについて知り、それを英語でどう表現するかという点が問題となる。本書は、日本の文化から歴史、最新情勢までを英日対訳によって解説したバイリンガル事典である。

全体は七分野に分けられ、それぞれ概説項目から専門項目へ配列している。各項目には、写真・図

表も多数掲載し、視覚的な理解も得やすい。

巻末には、日本国憲法・条約・日本史年表などが付されているが、これらも全て日英併記で掲載されている。



デザイナー人名事典(日外アソシエーツ 一九九八)

都市デザイナー・メカニックデザイナー・カラーデザイナーなど、今日デザイナーと呼ばれる人々は、あらゆる分野で活躍している。本書は、現在活躍中の人物を中心に、様々な分野のデザイナー約四千人を紹介したものである。

取り上げた人物は、手工芸・服飾・商業・生活空間といった専門分野に分けられる。見出しは人名の五十音順。各項目では、「生没年月日」「資格」「代表者」などの略歴の他、連絡先も記載されている。



随想

地方分権・地方の時代と云われ、各地域とも図書館等に収納されている歴史的資料をはじめとして膨大な文献の調査がなされている。この中から、その地域の特性を発見し、その点についての研究が開始され、町づくりの柱の一つとして何を取りあげるかが、議論され、これがまとめられ施策として打ち出されてくる。従って、この施策は地域住民一体となった事業として推進される。

高梁市のシンボルである、備中松山城は中世の遺構を残した近世式山城として歴史的価値が高く、現存している天守、二重櫓、土塀の一部は国の重要文化財に指定され、全国五十二城郭のうち、国宝(四)、国重文(八)のうちの一つである。このことに注目して、三十数年前から青年会議所をはじめとした諸団体が協力して、大手門の復元を目指して、運動が展開されてきた。

平成の時代に入り、本格的検討を行うため、専門家による整備委員会が結成され、調査、研究が深められた。

臥牛山、小松山にそびえる備中松山城は毛利輝之の築城(一五八〇)に始まり、小堀遠州(一六〇八)、水谷勝宗(一六八三)により完成したという歴史的事実がある。



平成の築城 備中松山城本丸復元 石井 保

慶長年間をはじめとした絵図も数枚あり、発掘調査をはじめ、古文書の吟味が開始された。昭和三年、昭和十五年、昭和三十五年、天守、二重櫓、土塀、石垣の解体修理をはじめ、各種の改修が行われており、当時、それぞれ厳密な調査が行われ、その記録も残っている。

備中松山城に対する先人の思いと努力が身にしみるとともに、図書館、資料館を中心として、常に資料収集に励み、厳重に保管されていた事に対して敬意を表する。当初は、大手門の復元を目指して検討が進められ、発掘調査、絵

図、古文書の研究により、平面は割り出されたが、玄面については推測の域を出ない部分があるため、あくまで史実に忠実に復元することを目標に明治三十二年(一八八九)の写真の現存している第一の平櫓、第六の平櫓と土塀(一九八メートル)の復元を計画した。

文化庁の復元検討委員会、第三専門調査部会、文化財保護審議会の検討、審議を経て、平成七年二月復元工事に着手し、平成九年三月に上下水道、トイレ棟を含め、本丸城郭の復元が完成し、江戸時代西国唯一の佐幕の雄藩の象徴、

備中松山城の本丸が現在は、江戸時代の姿そのままに臥牛山頂にそびえている。

復元工事の完成後、音声による説明機器、解説板標識、登城道の整備を開始し、天守及び第六の平櫓内の展示の充実を図り、登城者の歴史学習の参考となるよう事業が実施された。

備中松山城の特徴の一つは中世から近世の史跡がともに臥牛山頂に存在することである。従って、中世から近世の城郭の推移が学習できるように、平成十年度から臥牛山大松山にある中世の遺構が整備される予定である。

備中松山城復元の第一期工事は完了したが、続いて、第八の平櫓、大手門の復元を目指して、次の研究は開始されている。

郭復元後、一年を経過し、登城者も倍増し、備中高梁駅東に完成した文化交流館(歴史美術館、生涯学習センター)複合施設)の二階の歴史美術館内の歴史資料展示室もにぎわっている。

備中松山城とともに、中世から近世を学ぶ子どもたちの研究室でもあ



友の会だより

平成十年度文化センター友の会会員の募集について

文化センター友の会では次のとおり会員を募集します。

お誘い合わせのうえ、大勢の方にご入会していただけますようお願いしております。

会費 年額 三千元

特別な行事の場合には参加費が必要です。

期間 平成十年六月一日～平成十一年五月三十一日

特典 次の特典があります。

文化センターニュースを毎月送付。

文化センター主催の展覧会、土曜劇場の無料優待。

文化センター展示室での各種展覧会の割引。

友の会主催の次の行事に参加できます。

文化財めぐり、県外美術鑑賞旅行、スケッチ旅行、友の会作品展等

事務局 岡山市天神町八 五四

岡山県総合文化センター

総務課
☎(〇八六)二二四 一二八六
入会希望の方、ご質問等は事務局にご連絡ください。

平成10年

6月の催物案内

岡山県総合文化センター

ギャラリー

期 日	催 物	入 場 料	主 催 者	展 示 室
5 / 26 ~ 5 / 31	第52回 行 動 展 (巡回展)	一 般 600円 学 生 300円 70歳以上・身障者無料	中四国(岡山)行動美術協会	第1展示室 ・ 第2展示室
6 / 2 ~ 6 / 7	東 光 会 展 (巡回展)	一 般 700円 学 生 500円 老人, 中・小生無料 会 員 200円	東 光 会 岡 山 支 部	第1展示室 ・ 第2展示室
6 / 9 ~ 6 / 14	第50回 朝 陽 書 道 会 展 (巡回展)	無 料	朝 陽 書 道 会	第1展示室 ・ 第2展示室
6 / 16 ~ 6 / 21	第30回 道 文 会 展 岡山 写 真 家 集 団 展	無 料	道 文 書 道 会 岡 山 写 真 家 集 団	第1展示室 第2展示室
6 / 23 ~ 6 / 28	第24回 抱 象 会 書 展	無 料	抱 象 会	第1展示室
	岡山独立美術クラブ展(油絵発表展示)	無 料	岡 山 独 立 美 術 ク ラ ブ	第1展示室
	第29回 清 尚 会 書 道 展	無 料	清 尚 会	第2展示室
6 / 30 ~ 7 / 5	第28回 水 墨 画 ・ 関 谷 彫 芳 石 会 展	無 料	芳 石 会 連 合 会	第1展示室
	第31回 清 美 展	無 料	ノートルダム清心女子大学美術部	第1展示室
	第27回 独 立 書 人 団 岡 山 支 部 展	無 料	独 立 書 人 団 岡 山 支 部	第2展示室
	岡山理科大学学友会文化局写真部学外展	無 料	岡 山 理 科 大 学 学 友 会 文 化 局 写 真 部	第2展示室

ギャラリーの開場時間は通常9時から17時です

ホール(固定席282席)

日(曜)	催 物	時 間	料 金	主 催 者
6 / 1(月)	集 会 室 (ホール) 抽 選 会	9 : 00 ~ 12 : 00		岡山県総合文化センター 総務課文化係
6 / 6(土)	演 劇 公 演 「 つ ば さ 」 (1966年すみれ荘の夏)	15 : 00 ~ 17 : 00	一般前1,500 当1,700 学生前1,000 当1,300	演 劇 工 舎 「 ゆ め 」
6 / 7(日)		14 : 00 ~ 16 : 00		
6 / 12(金)	第291回	9 : 00 ~ 17 : 00	無 料	岡 山 県 総 合 文 化 セ ン ター
6 / 13(土)	文 化 セ ン ター 土 曜 劇 場	9 : 00 ~ 20 : 00		
6 / 14(日)	岡 山 県 高 等 学 校 演 劇 協 議 会	9 : 00 ~ 16 : 00		
6 / 20(土)	ラ イ ブ 演 奏 会	13 : 00 ~ 17 : 00	有 料 (400円程度)	ギルティーパイス研究会
6 / 21(日)	ピ ア ノ 発 表 会	13 : 00 ~ 17 : 00	無 料	吉 田 ピ ア ノ 教 室
6 / 27(土)	ジ ョ イ ン ト コ ン サ ー ト	13 : 30 ~ 16 : 00	有 料	Porpoise

会員...文化センター友の会及び文化振興会会員

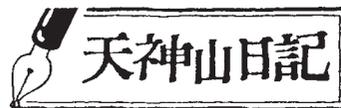
平成10年度ホール 抽選日のお知らせ

抽選月日	曜	抽選対象利用日
10年 6月1日	月	10年10月1日 ~12月27日
9月1日	火	11年1月5日 ~3月31日
12月1日	火	4月1日 ~6月30日
11年 3月1日	月	7月1日 ~9月30日

9 : 00 ~ 受付

アドレス <http://www.libnet.gr.jp>

ページには二種類あるのをご存知でしたか？
ひとつは、「電子図書館ネットワーク研究会」の主催する「デジタル岡山大百科」の部分です。郷土の情報を発信しています。もうひとつは、図書館部門・文化部門からのお知らせや資料情報です。どうもこちらへのアクセスが伸び悩んでいるようです。「魅力的な情報」がすべてです。から、担当者一同、皆様にご利用いただけるよう、気合を入れさせていただきます。



総合文化センター
インターネット上に
ホームページを開いて
二ヶ月になるうとして
います。四月末現在の
アクセス数が約五百三
十になり、担当課とし
てはこの数字が増える
のを楽しみにしていま
す。
とここで皆様、総合
文化センターのホーム
ページには二種類あるのをご存知
でしたか？